
S F C 怪奇現象

ザムディン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SFC怪奇現象

【Nコード】

N2415L

【作者名】

ザムディン

【あらすじ】

エッセイ。SFCプレイ中に起こった謎の現象の思い出。

小学生だったわたしにとって、家庭用ゲームと言えばSFCだった。ここで言うSFCとは、いわずと知れた名ハード『スーパーファミコンコンピュータ』（通称スーパーファミ）である。決して『小児用フライドチキン』等のものではない。

わたしが小学生の頃と言えば、もっぱらプレステ（PS）の時代だった。たしか、高学年になったころにはPS2も出ていた。

しかし、わたしはPSそっちのけでSFCばかりやってた。アニキが貸してくれなかった、というのもあるが、なによりSFCが好きだったのだ。

ロードは短いし、わずらわしいメモリーカードも無いし、名作がそろっている。絵も劇的に美麗。

しかも、初代FCに比べボタンの数はなんと二倍。断然お得だ。

それに比べて、PSのソフトなんて、なんだあれは。ゾウが踏んでも壊れないどころか、人が踏んだだけですぐ壊れそうな華奢なディスクで出来ている。

SFCは違う。堂々と構えた力強い平箱の形をしている。あれならばゾウとも立派に張り合えるハズだ。

しかし、やはり比較的古いゲーム機ではあるので、多少プログラムのバグが多いのかもしれない。

わたしが小学3年生のとき、こんなことがあった。

わたしはその日、友人Kの家に遊びに行った。

バッグの中には、お気に入りSFCソフトが何本か突っ込んである。

その日は、真夏のクソ暑い部屋の中で気が済むまでSFCをやろう、ということになっていた。今考えると、狂気の沙汰としか言いようがない。

友人の家に着いて、まずわたし達がプレイし始めたのは、名作『ボンバーマン3』だった。

爆死、圧死、窒息死と、切り裂きジャックも真っ青のサヴァイバルゲームが若干コミカルな描写で描かれているゲームだ。

もしPS3等の超高画質な次世代ゲーム機で発売しようものなら、確実に15禁はかたい。

無邪気な少年たちは、しばらくボンバーマンを楽しんだ。

一時間ほどして、友人のKが「別のゲームやろうか？」と言い出したので、SFCの電源を切り、ボンバーマンのカセットを抜き取った。

一時間の戦いの中で、吹っ飛んだり、つぶされたり、轢かれたり、窒息したりして死んでいった爆弾男たちに敬意を払いつつ、我々が次に選んだソフトは『桃太郎電鉄』だった。

大企業の社長達が、すごろく形式で楽しみながら旅をし、日本各地、果てはハワイやグアムまでの物件を買い占め、拳句の果てに、お小遣いと称して数百万円を奪われると言う、なんとも金銭感覚を狂わされるゲームだ。

「ももたる魔王！」があながちハッターに聞こえないから不思議だ。

Kは、抜き取ったボンバーマンのソフトを床に置き、桃鉄をSFCに差し込んだ。

電源を入れながら頭に浮かぶのは、億単位の借金にまみれながら、貧乏神が買ってきた徳政令カードを使う健気な赤鬼の姿であった。

SFC独特の『フーフー作業』もせず、一発で画面がついた。

もう頭の中には、ウロウロしながら赤マスに突っ込む赤鬼の姿しかない。

テレビから元気良く「ばい！はどそん！！」と声が聞こえた。

しかし、わたしとKは、少し違和感を覚えた。

その声は、いつもの桃太郎さんの声ではなかったのだ。

むしろ、さつきトロッコに轢かれて無残な死を遂げた、あの爆弾男のそれに近い。

「アレ？」と思った頃には、すでに画面が切り替わっていた。

だが、流れ始めたオープニング画面も、桃鉄ではなく、ボンバーマンのものだった。

「なんだ、ボンバーマンのカセット抜いた後、間違ってたまたボンバーマンのカセット差したんだな。あはは、まったくおれっておばかチン！」

と思いSFC本体に目をやったが、確かに本体には桃鉄が差さっていた。

確かに桃鉄が差さっているのに、画面はボンバーマンのものなのだ。

わたしとKは、もう何がなんだか分からなくなり、ただただ部屋の

中をグルグル走り回ることしか出来なかった。

しかし、ずっと走り回っているわけにもいかないので、恐る恐る電源を切ってみた。

カセットを抜き差しし、もう一度電源を入れてみる。

すると今度は本来の桃鉄のオープニングが流れ始めた。

今こんな事態に遭遇したら、ゲームスタートしてもボンバーマンが出来るのかとか色々実験してそれをもとにレポートでも書いて新作エッセイとして公開してやるところだが、さすがにこの時はそんな余裕など無かった。

桃鉄のオープニングはしばらく流れていたが、さすがにすぐやる気にはなれず、Kと今起こった事態について議論を交わし合っていた。

ふと画面を見ると、ラーメンが宙を浮き、鬼や閻魔様が楽しそうに笑っていた。

今考えるに、夏場に長時間プレイしていたせいで、本体の温度が上がって不具合が起こったのかもしれない。

同じハドソンのソフトだったし、多分そんなところだろう。

ブルーレイディスクだのWiiriモコンだのがはびこる今でも、わたしはよくSFCをプレイしている。

スタートボタンが利かなくなったり、一度別のゲームをやってからもう一度プレイしようとするともう記録が消えてたりと色々あるが、それでもわたしはSFCをやり続けている。これからもやり続けるだろう。

ちょっと欠点もあるが、兄や友人達とそのゲームをプレイした時代を思い出せる。

そんなSFCがわたしは大好きだ。

お読みいただき、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2415/>

S F C 怪奇現象

2010年10月12日03時11分発行